

## 新規受託項目

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記項目につきまして、検査の受託を開始いたしますのでご案内申し上げます。

謹白



### 項目名

● 血中遊離メタネフリン分画

(依頼コード No.13390)

受託開始日 2021年11月1日(月) ご依頼分より

遊離メタネフリン・ノルメタネフリンはカテコールアミンが代謝酵素であるカテコール-O-メチル基転移酵素(COMT)の作用を受けて産生された代謝産物で、硫酸抱合体となる前の状態を指します。COMTは褐色細胞腫で高濃度に発現しているため、褐色細胞腫患者の体内では遊離メタネフリン及び遊離ノルメタネフリンが持続的に分泌され、血中濃度が上昇します。

褐色細胞腫は、高血圧、動悸、頻脈、胸痛、頭痛、顔面蒼白、不安感など多彩な臨床症状を示し、代謝面からは、高血糖、乳酸アシドーシス、体重減少等を認めることが多いですが、無症候性、正常血圧性で副腎偶発腫瘍として発見されることもあります。

褐色細胞腫の診断には尿中カテコールアミン分画や尿中メタネフリン分画の測定が用いられていますが、24時間蓄尿が必要です。一方、血中の遊離メタネフリンと遊離ノルメタネフリンを測定することは外来採血でも実施できるため、欧米では褐色細胞腫診断において最も感度・特異度の高い検査として多く用いられています。

この度、褐色細胞腫の診断補助として保険適用されている本検査の受託を開始いたします。

裏面に続きます

## 受託要領

依頼コードNo.	13390 (親) 血中遊離メタネフリン分画 ----- (子) 22617 血中メタネフリン (子) 22618 血中ノルメタネフリン
統一コード	4E041-0000-022-021
検体必要量	血漿(EDTA2Na) 1.0mL
容器	B-7→S-1
検体の保存方法	凍結
所要日数	4~10
検査方法	EIA法
基準値	褐色細胞腫のカットオフ値 メタネフリン : 130.0以下 ノルメタネフリン : 506.0以下
単位	pg/mL
報告範囲	メタネフリン : 20.0未満~3600.0以上 ノルメタネフリン : 35.0未満~7200.0以上
報告桁数	小数第1位
検査実施料/判断料	320点/144点(生化学的検査(Ⅱ)) ----- 褐色細胞腫の鑑別診断を行った場合に1回に限り算定する。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守し、褐色細胞腫を疑う医学的な理由を診療録に記載すること。 メタネフリン、メタネフリン・ノルメタネフリン分画、ノルメタネフリン又は遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>測定値が上昇するおそれがあるため、仰臥位(ぎょうがい)にて20分間安静にした後に採血してください。</li> <li>著しい溶血や乳びが認められる検体は不可です。 (特に溶血血漿は低値となる可能性があります。)</li> <li>COMTによるドーパミン代謝物である3-methoxytyramineが著しく高値の場合、褐色細胞腫以外のドーパミン産生腫瘍の疾患では稀に偽陽性となる場合がありますのでご注意ください。</li> <li>セロトニン、ノルアドレナリン再取込み阻害剤、三環系抗うつ剤、MAO阻害剤、L-DOPA、交感神経刺激剤等の薬物投与を受けた後の検体では、測定値に影響を与える場合がありますのでご注意ください。</li> </ul>

### 【検査方法の参考文献】

柳瀬里美, 他: 医学と薬学 77, 119-129, 2020.

### 【参考文献】

Tanaka Y. et al.: Endocrine Journal 61, 667-673, 2014.

日本内分泌学会「悪性褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成」委員会: 褐色細胞腫・パラングリオーマ診療ガイドライン2018